

岡山県感染症週報

2012 年 第 21 週（5 月 21 日～5 月 27 日）

◆2012 年 第 21 週（5/21～5/27）の感染症発生動向（届出数）

■全数把握感染症の発生状況

第 19 週 2 類感染症 結核 5 名（60 代 男 1 名、70 代 男 1 名、80 代 男 1 名、女 2 名）
 第 20 週 2 類感染症 結核 7 名（30 代 女 1 名、40 代 男 1 名、70 代 男 1 名・女 1 名
 80 代 男 2 名、90 代 男 1 名）
 5 類感染症 後天性免疫不全症候群 1 名（30 代 男）
 第 21 週 2 類感染症 結核 1 名（70 代 男）
 3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1 名（80 代 女）

■定点把握感染症の発生状況

○感染性胃腸炎は、県全体では前週とほぼ同数で、美作地域では患者が減少し感染症発生レベル 1 になりました。
 ○マイコプラズマ肺炎は、備北地域で患者の報告がつづいています。

1. 腸管出血性大腸菌感染症は、5 月に 1 名、2012 年はこれまでに 4 名の発生がありました。
2. 感染性胃腸炎の定点あたり患者数は、前週とほぼ同数でした（定点あたり 7.94 → 8.06 人）。詳しくは『[感染性胃腸炎情報](#)』をご覧ください。
3. マイコプラズマ肺炎は、県全体では例年同様の患者数ですが、備北地域で患者報告がつづいています。
 患者数は、第 19 週 県全体で 3 名（うち備北地域 2 名）、第 20 週 3 名（うち 3 名）、第 21 週 5 名（うち 5 名）です。
 マイコプラズマ肺炎は、幼児・学童（5～12 歳）や青年に多く、肺炎のわりに元気で全身状態も悪くないことが特徴です。症状が軽くても、咳が長引く時は早めに医療機関を受診してください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★	RSウイルス感染症		★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★
感染性胃腸炎		★★★★	水痘		★★
手足口病		★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★★	百日咳		
ヘルパンギーナ		★	流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎		★★	クラミジア肺炎		

【記号の説明】

前週からの推移：：2 倍以上の減少 ：1.1～2 倍未満の減少 ：1.1 未満の増減
：1.1～2 倍未満の増加 ：2 倍以上の増加

発生状況：空白：発生なし ★：僅か ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

※今週の流行状況を過去 5 年間で比較し、5 段階で表示しています。

今週の注目感染症

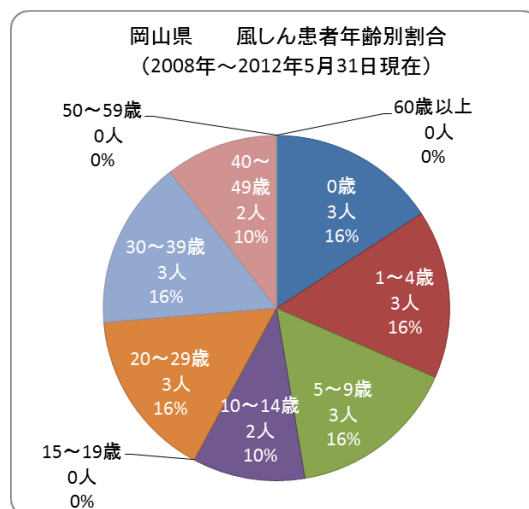
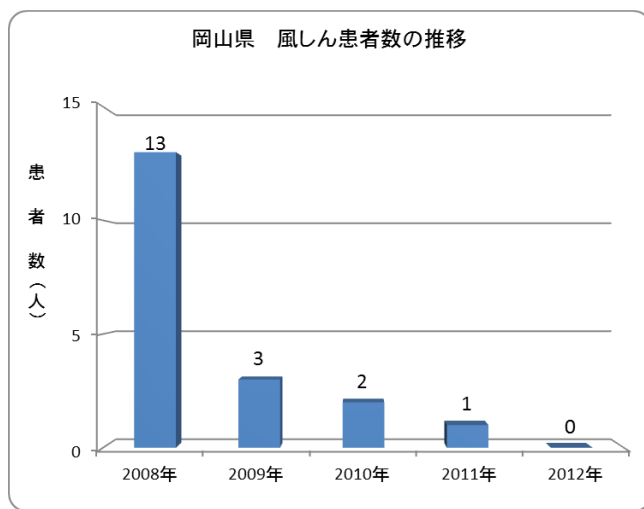
風しん

風しんは、「三日ばしか」とも呼ばれ、感染症発生動向調査において全数把握感染症の 5 類感染症であり、医師は風しん患者を診断したときには、最寄りの保健所に届出ることになっています。

2012 年、兵庫県では第 1 週～第 21 週までに 68 名の届出があり、調査の始まった 2008 年以降で最大の流行となっていると報告されています。[\(兵庫県感染症情報センター 第 21 週週報、兵庫県記者発表資料\)](#)
また、昨年、本年と兵庫県以外にも届出数が増加している都道府県が見られます。厚生労働省は、2012 年第 15 週 (4/9～4/15) 時点の全国合計で、昨年同時期の約 2 倍の届出数となっており、注意を呼びかけています。[\(厚生労働省 風しん患者の地域的な増加について \(平成 24 年 5 月 25 日\)、風しんの報告数の推移\)](#)

【岡山県の風しん発生状況】

岡山県では、調査の始まった 2008 年以降患者は減少しており、本年はまだ届出がありません。年齢別では、50 代以上の患者報告はありませんが、各年齢層において大きな差はありません。

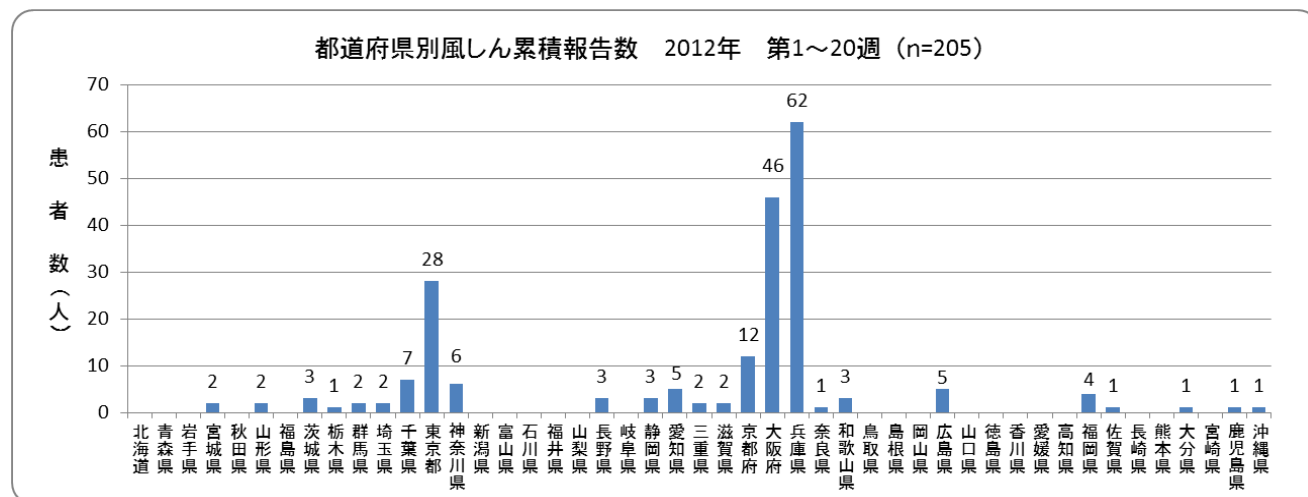


【全国の風しん発生状況】

2011 年、全国では全数報告疾患となった 2008 年以降では最も多い年間報告数 (374 例) となりました。(2012 年 4 月 18 日集計)。さらに 2012 年第 1～20 週の累積報告数は 205 例の報告があり、昨年同時期の報告数を大きく上まわっています。

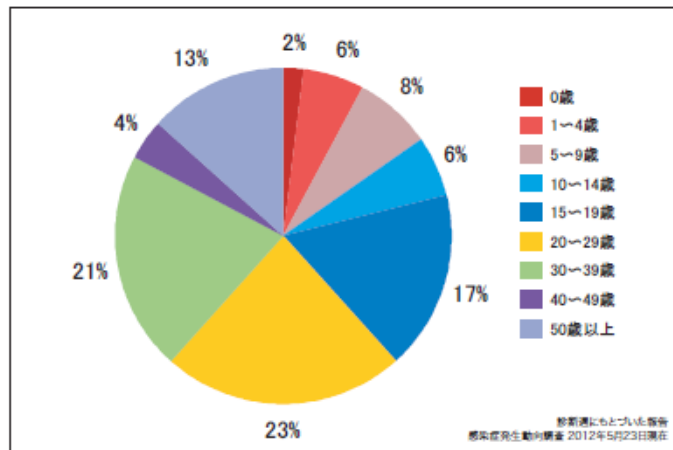
都道府県別の報告数は兵庫県 62 例、大阪府 46 例、東京都 28 例の順であり、人口 100 万人当たり報告数でみると、兵庫県、大阪府、京都府、和歌山県の順で、近畿地方で患者発生が多くなっています。男女別では、男性 153 例 (75%)、女性 52 例で男性が女性の約 3 倍報告されており、年齢については、男性は 20～40 歳代、女性は 20～30 歳代が多くを占めています。また、ワクチン接種歴については男女とも接種歴のない症例が約 30%でした。感染地域は全例が国内感染であったと報告されています。

[\(国立感染症情報センター 2012 年第 20 週\(5/14～5/20\) 風しん速報グラフ\)](#)

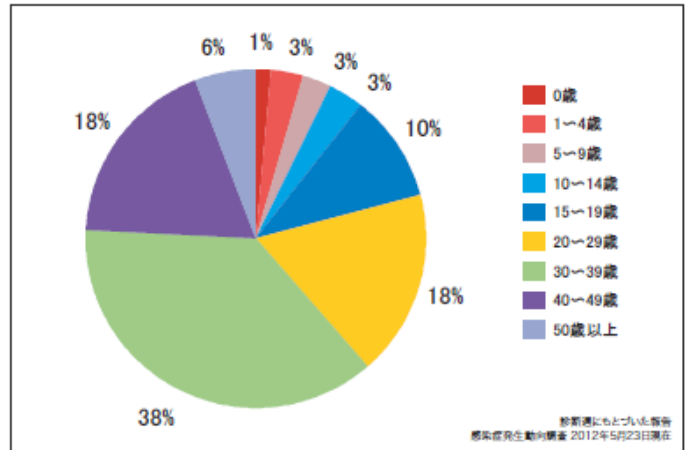


全国 年齢群別風しん累積報告数割合 2012 年第 1～20 週(国立感染症情報センターHPより)

男性 (n =153)



女性 (n =52)



【風しんとは】

風しんとは、風しんウイルスによる急性熱性発しん性疾患で、春先から初夏にかけて多くみられます。

([国立感染症情報センター 風しんQ&A](#))

【症状】

感染後、14～21 日（平均 16～18 日）の潜伏期間の後、発熱・発疹・リンパ節腫脹（特に耳後部、後頭部、頸部）を 3 主徴として発症します。発熱は 38～39℃で 3 日程度つづきます。発疹は多くの場合、紅く、小さく、皮膚面よりやや隆起した発疹が現れ、3 日程度で消退します。リンパ節は発疹の出現する数日前から腫れはじめ、3～6 週間程度持続します。

基本的には、予後良好な感染症ですが、まれに脳炎・血小板減少性紫斑病を合併することがあります。

【感染経路】

多くは、くしゃみ等の唾液のしぶきによる飛沫感染です。発疹のでる 2-3 日前から発疹が出たあとの 5 日くらいまでがうつしやすいと考えられています。感染力は、麻疹（はしか）や水痘（水ぼうそう）ほどは強くありません。一度かかると、大部分の人は生涯風しんにかかることはありません。集団生活にはいる 1～9 歳ころ（1～4 歳児と小学校の低学年）に発生が多くみられます。

【治療・予防】

特異的な治療法はなく、対症療法が中心となります。予防には、ワクチン接種が効果的です。

【先天性風しん症候群】

妊婦、特に妊娠初期の女性が風しんにかかると、胎児が風しんウイルスに感染し、難聴、心疾患、白内障、そして精神や身体の発達の遅れ等の障害をもった赤ちゃんが産まれる可能性があります。これらの障害を先天性風疹症候群といいます。風しんの予防接種を行う第一の目的は、妊婦が風しんにかかることによって生まれてくる赤ちゃんが先天性風しん症候群の障害をもつことのないように、また妊婦以外の方が妊婦などに風しんをうつすことを予防できます。

【風しんの予防接種】

風しんは予防接種で防げる病気です。定期予防接種の対象となる方はぜひ予防接種を受けましょう。

定期予防接種では、麻疹・風しん混合ワクチン（MR ワクチン）として接種します。詳しくは、お住まいの市町村の予防接種担当課へお問い合わせください。

※中学校 1 年生と、高校 3 年生に相当する年齢の人の接種は、2008 年から 2012 年度まで 5 年間、定期の予防接種の対象になっています。

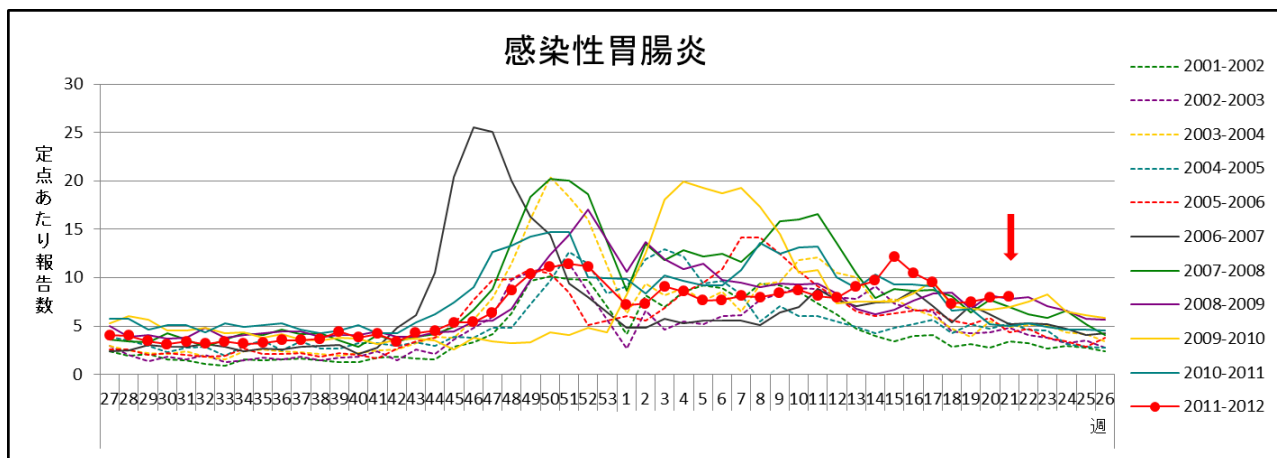
第 1 期	生後 12 ヶ月から 24 ヶ月の間
第 2 期	5 歳から 7 歳未満の者で、小学校就学 1 年前
第 3 期	中学校 1 年生に相当する 1 年間の者
第 4 期	高校 3 年生に相当する 1 年間の者

また、定期予防接種の対象でない方でこれまで風しんにかかったことのない方、予防接種を受けていない方も予防接種を受けることをお勧めします。

感染性胃腸炎情報 第 21 週 2012 年 5 月 21 日～5 月 27 日

○岡山県内の患者報告数は 435 名（ 定点あたり 8.06 人 ）で、前週とほぼ同数でした。

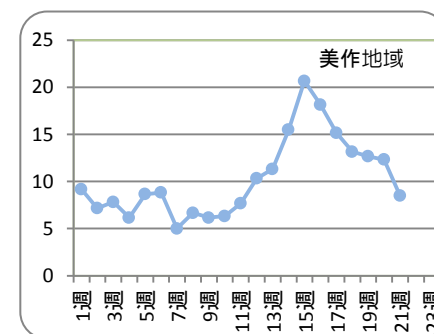
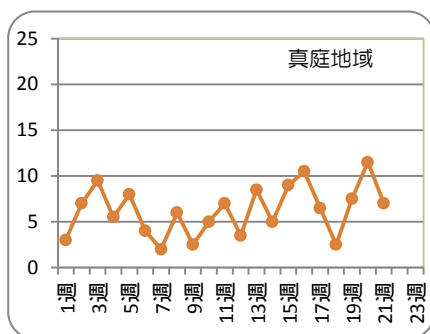
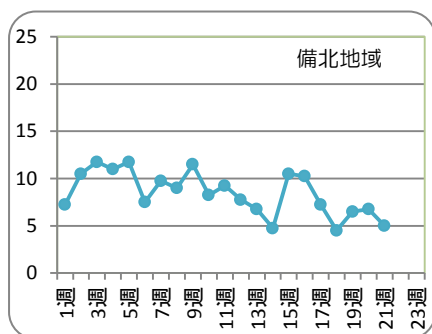
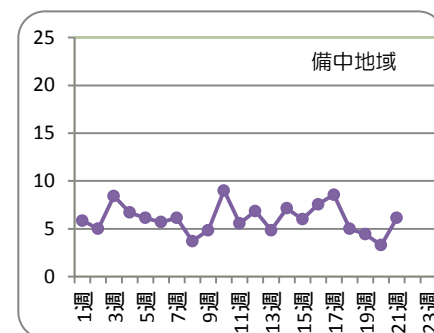
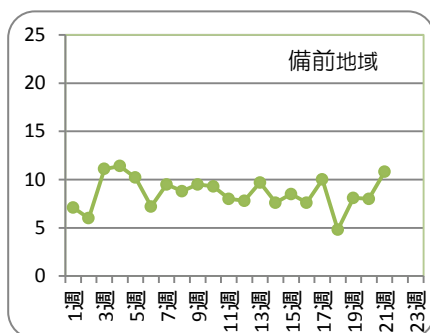
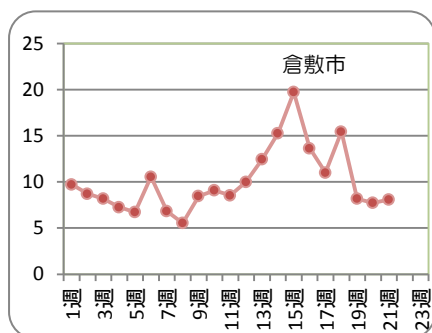
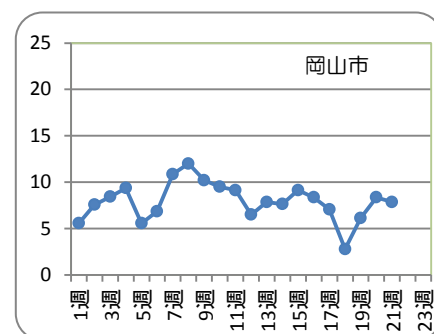
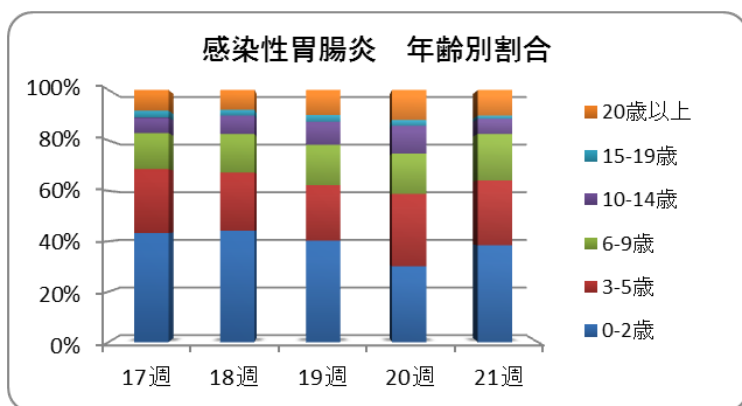
○美作地域では、感染症発生レベル 1 になりました。



感染性胃腸炎は、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、前年 27 週 ～ 今年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

感染性胃腸炎の定点あたり患者数は、前週とほぼ同数でした（ 54 定点医療機関 定点あたり 7.94 → 8.06 人 ）。地域別では備前地域（10.80 人）で患者が増加しました。美作地域では第 15 週以降感染症発生レベル 3 がつづいていましたが、徐々に患者は減少しており、今週はレベル 1 になりました。患者は 0-5 歳の低年齢層に多くみられ、この年齢層が全体の約 65% を占めています。

手洗いを励行するなど、ひきつづき感染予防に努めましょう。



保健所別報告患者数 2012年 21週 (2012/05/21～2012/05/27)

2012年5月30日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	16	0.19	3	0.14	6	0.38	—	—	5	0.42	1	0.17	—	—	1	0.10
RSウイルス感染症	3	0.06	1	0.07	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	0.33
咽頭結膜熱	18	0.33	8	0.57	3	0.27	—	—	2	0.29	1	0.25	—	—	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	54	1.00	22	1.57	16	1.45	1	0.10	2	0.29	—	—	1	0.50	12	2.00
感染性胃腸炎	435	8.06	110	7.86	89	8.09	108	10.80	43	6.14	20	5.00	14	7.00	51	8.50
水痘	88	1.63	27	1.93	16	1.45	10	1.00	6	0.86	10	2.50	2	1.00	17	2.83
手足口病	11	0.20	7	0.50	2	0.18	—	—	1	0.14	1	0.25	—	—	—	—
伝染性紅斑	3	0.06	—	—	1	0.09	—	—	—	—	1	0.25	—	—	1	0.17
突発性発疹	31	0.57	11	0.79	7	0.64	5	0.50	2	0.29	—	—	—	—	6	1.00
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	6	0.11	5	0.36	—	—	1	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	14	0.26	6	0.43	2	0.18	1	0.10	3	0.43	1	0.25	—	—	1	0.17
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	3	0.25	2	0.40	—	—	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	5	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	5	5.00	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(— : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2012年 21週 (2012/05/21～2012/05/27)

2012年5月30日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	16	0.19	3	0.14	6	0.38	—	—	5	0.42	1	0.17	—	—	1	0.10
咽頭結膜熱	18	0.33	8	0.57	3	0.27	—	—	2	0.29	1	0.25	—	—	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	54	1.00	22	1.57	16	1.45	1	0.10	2	0.29	—	—	1	0.50	12	2.00
感染性胃腸炎	435	8.06	110	7.86	89	8.09	108	10.80	43	6.14	20	5.00	14	7.00	51	8.50
水痘	88	1.63	27	1.93	16	1.45	10	1.00	6	0.86	10	2.50	2	1.00	17	2.83
手足口病	11	0.20	7	0.50	2	0.18	—	—	1	0.14	1	0.25	—	—	—	—
伝染性紅斑	3	0.06	—	—	1	0.09	—	—	—	—	1	0.25	—	—	1	0.17
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	6	0.11	5	0.36	—	—	1	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	14	0.26	6	0.43	2	0.18	1	0.10	3	0.43	1	0.25	—	—	1	0.17
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	3	0.25	2	0.40	—	—	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2

を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2012年 第21週 2012/05/21～2012/05/27)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	16	-	-	-	-	-	-	1	3	1	-	3	1	1	-	1	1	1	-	3	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	3	-	2	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	18	-	1	3	4	2	3	-	3	-	-	1	-	1	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	54	-	-	-	2	9	10	7	6	4	3	3	8	-	2
感染性胃腸炎	435	5	26	75	61	46	34	32	25	20	22	13	26	6	44
水痘	88	1	7	15	18	15	13	9	2	1	4	1	1	-	1
手足口病	11	-	-	5	2	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1
突発性発疹	31	-	14	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	6	-	-	4	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
流行性耳下腺炎	14	-	-	-	1	4	2	1	1	2	-	1	2	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	5	-	1	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

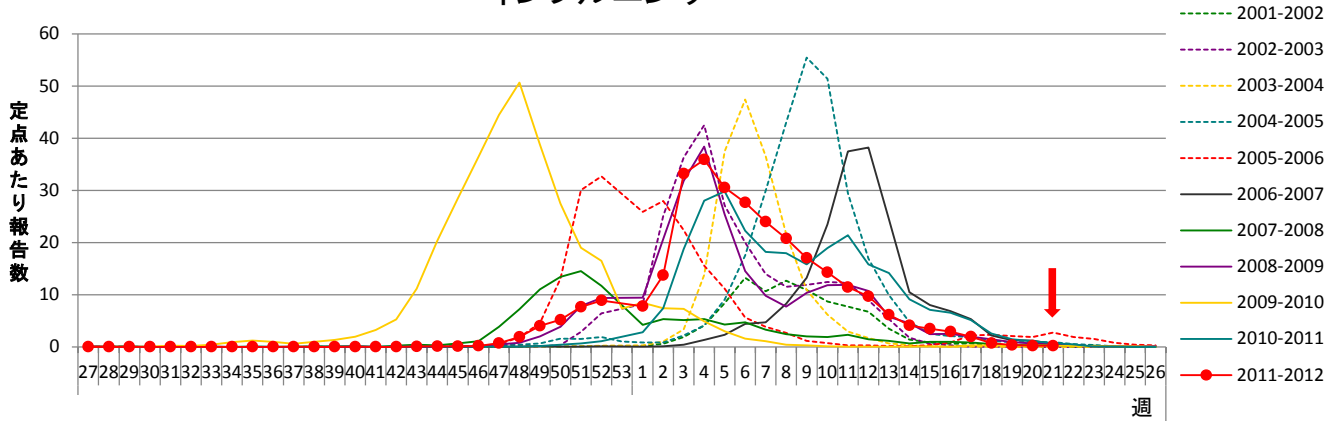
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

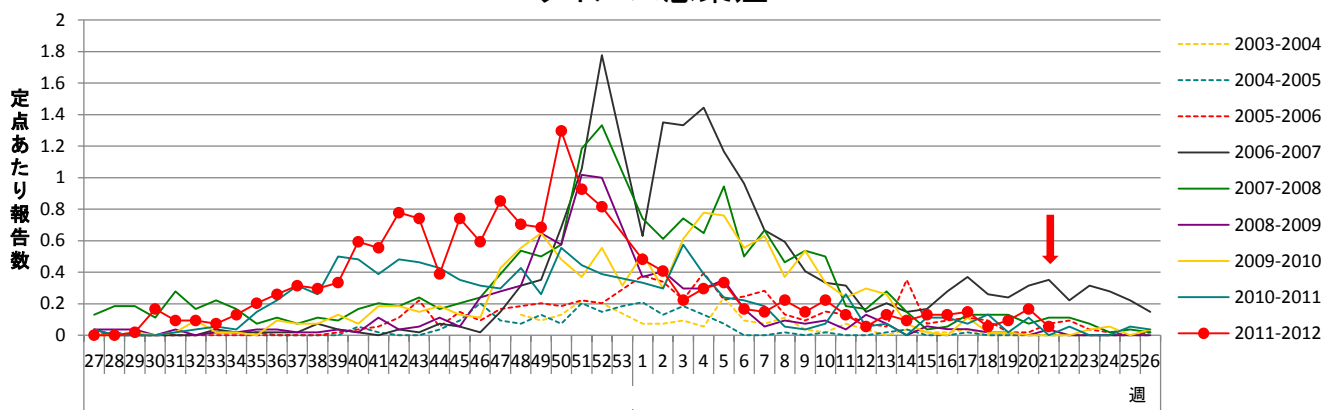
2012 年 21 週

分類	疾病名	2012		2011	疾病名	2012		2011	疾病名	2012		2011
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	1	154	557	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	1	腸管出血性大腸菌感染症	1	4	67
	腸チフス	-	1	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	-	1	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	1	3
	エキノкокクス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-
	ダニ媒介脳炎	-	-	-	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-
	つつが虫病	-	-	3	デング熱	-	-	-	東部ウマ脳炎	-	-	-
	鳥インフルエンザ	-	-	-	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-
	日本紅斑熱	-	-	3	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-
	鼻疽	-	-	-	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-
	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	発しんチフス	-	-	-	ボツリヌス症	-	-	1
	マラリア	-	-	-	野兎病	-	-	-	ライム病	-	-	-
	リッサウイルス感染症	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-
	レジオネラ症	-	8	37	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	-	5	11	ウイルス性肝炎*3	-	3	9	急性脳炎*4	-	1
クリプトスポリジウム症		-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	1	2	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	-	1
後天性免疫不全症候群		-	6	15	ジアルジア症	-	1	2	髄膜炎菌性髄膜炎	-	-	-
先天性風しん症候群		-	-	-	梅毒	-	2	9	破傷風	-	-	3
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	1	-	風しん	-	-	1
麻しん		-	5	4		-	-	-		-	-	-

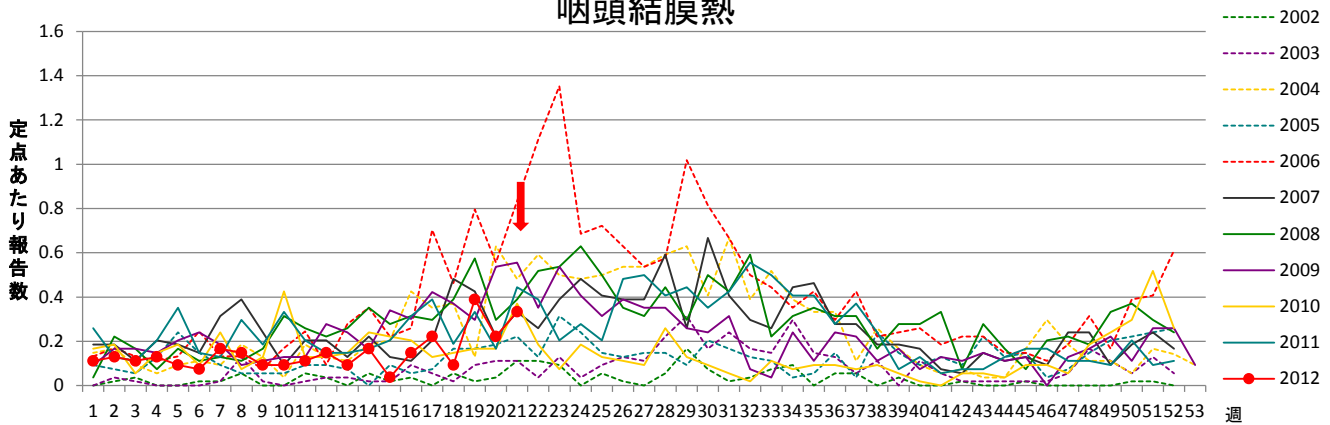
インフルエンザ



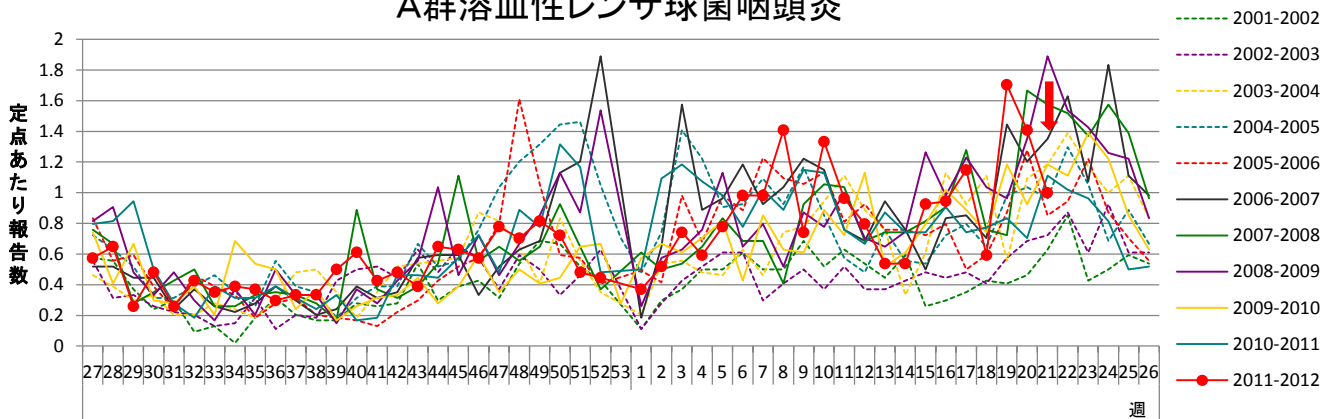
RSウイルス感染症



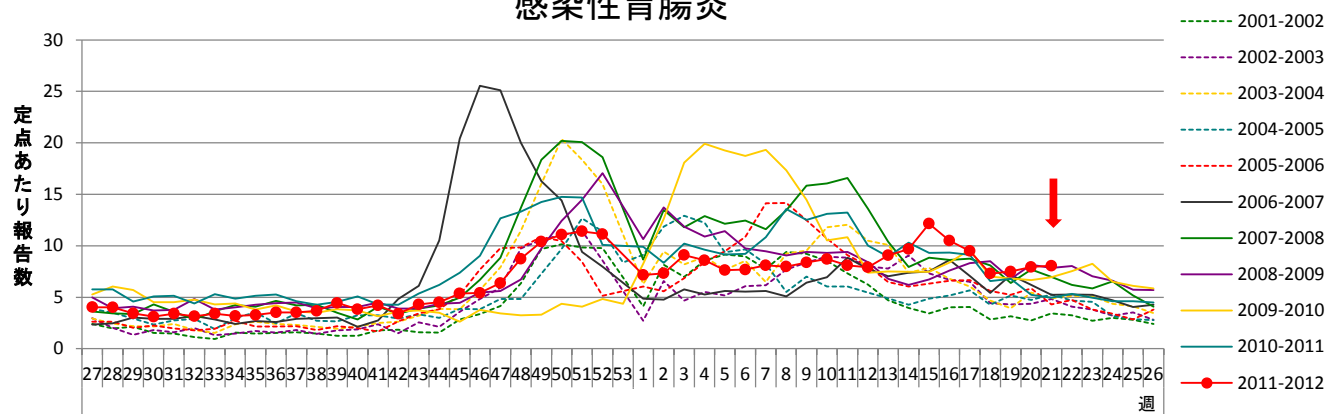
咽頭結膜熱



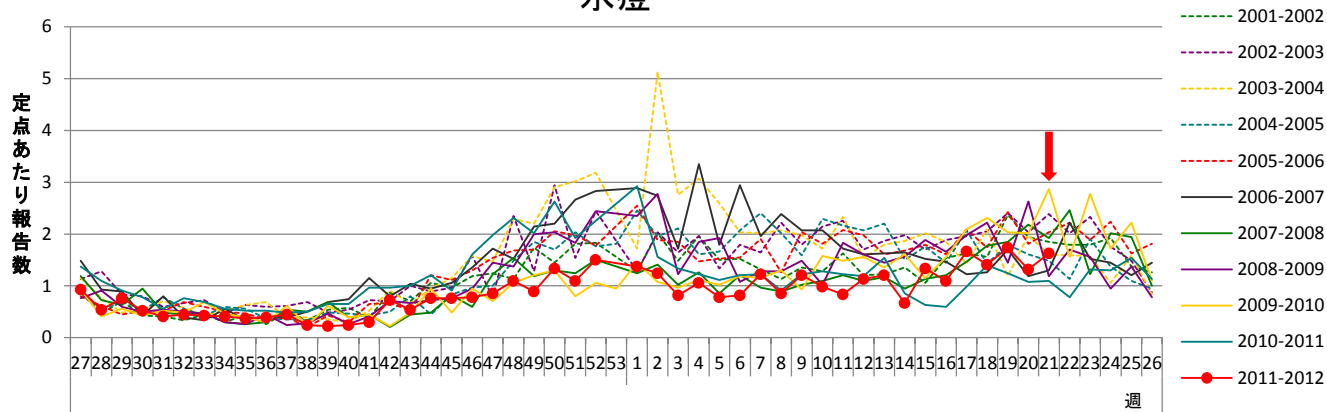
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



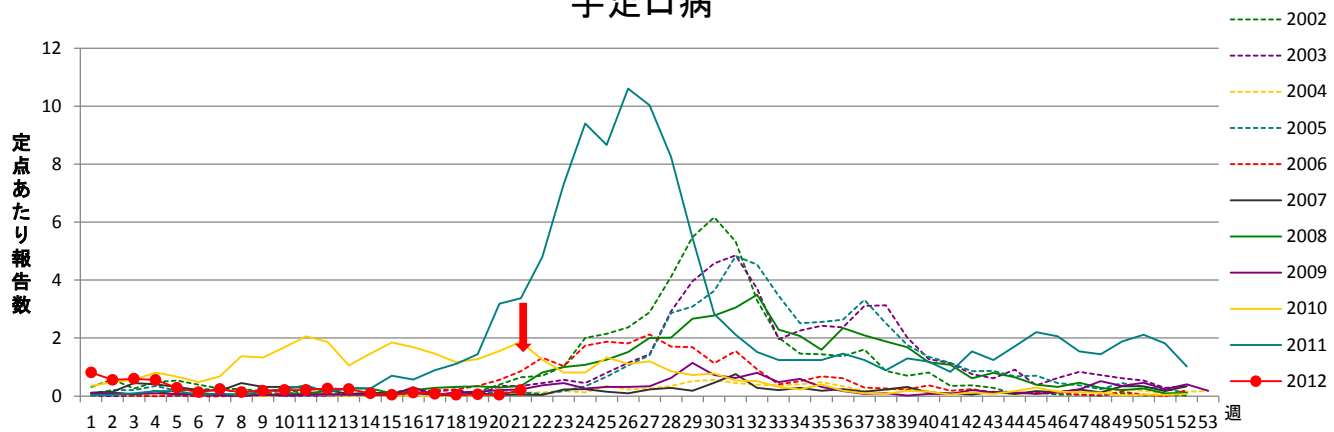
感染性胃腸炎



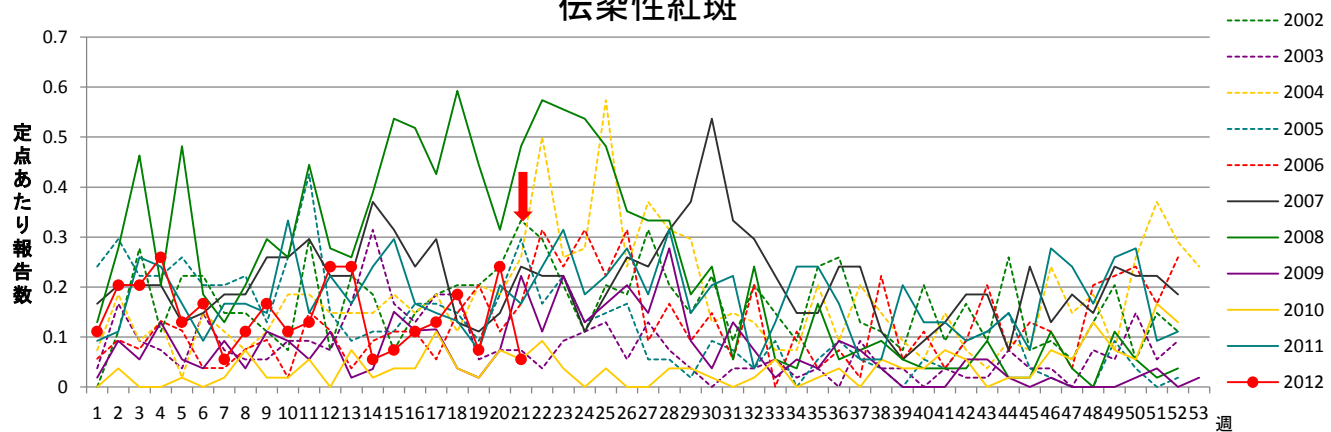
水痘



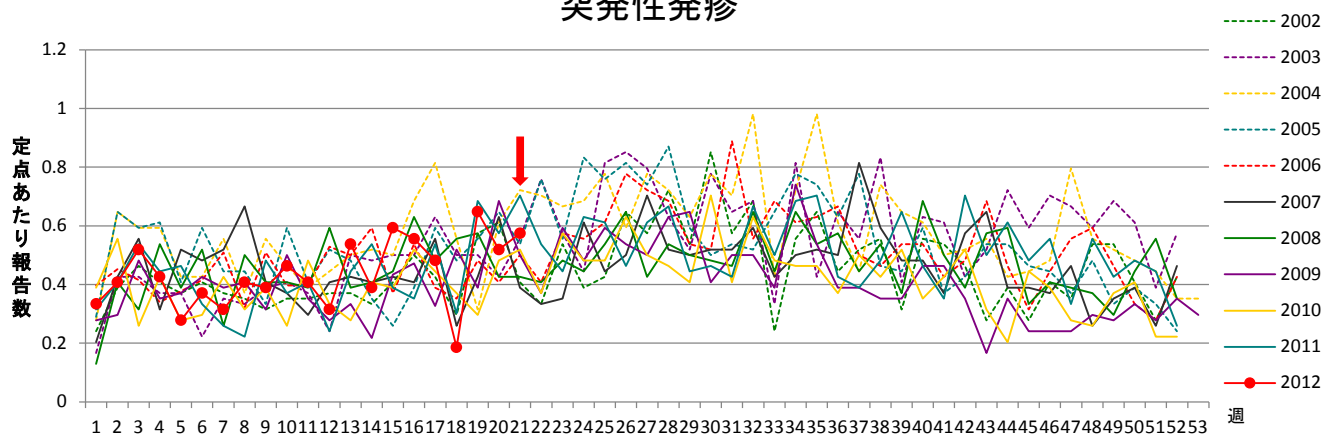
手足口病



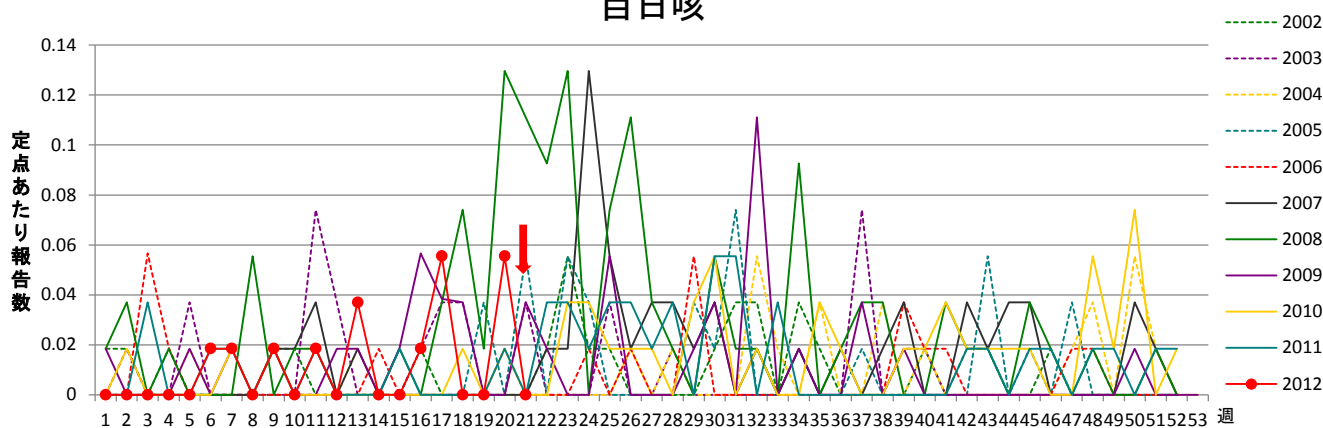
伝染性紅斑



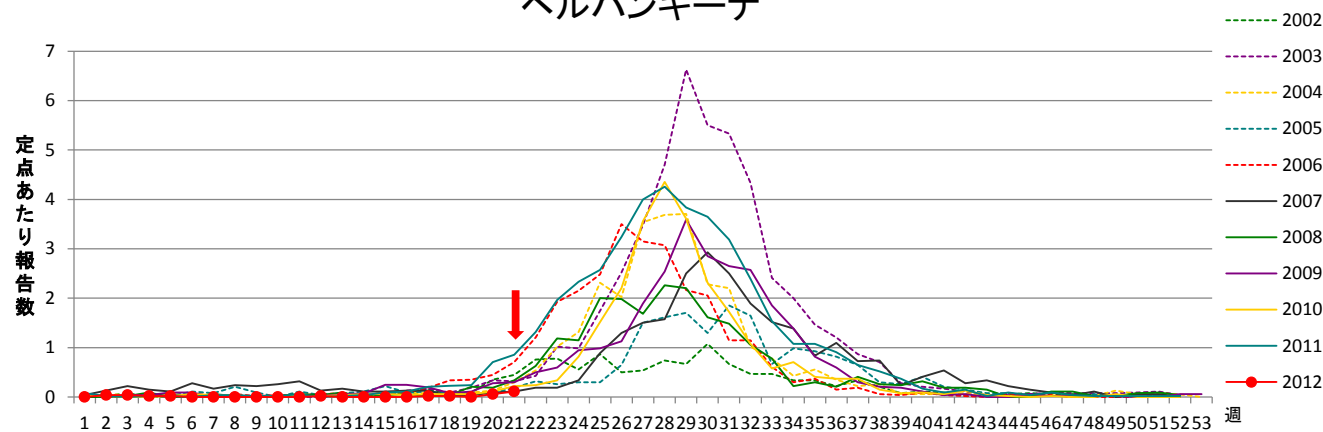
突発性発疹



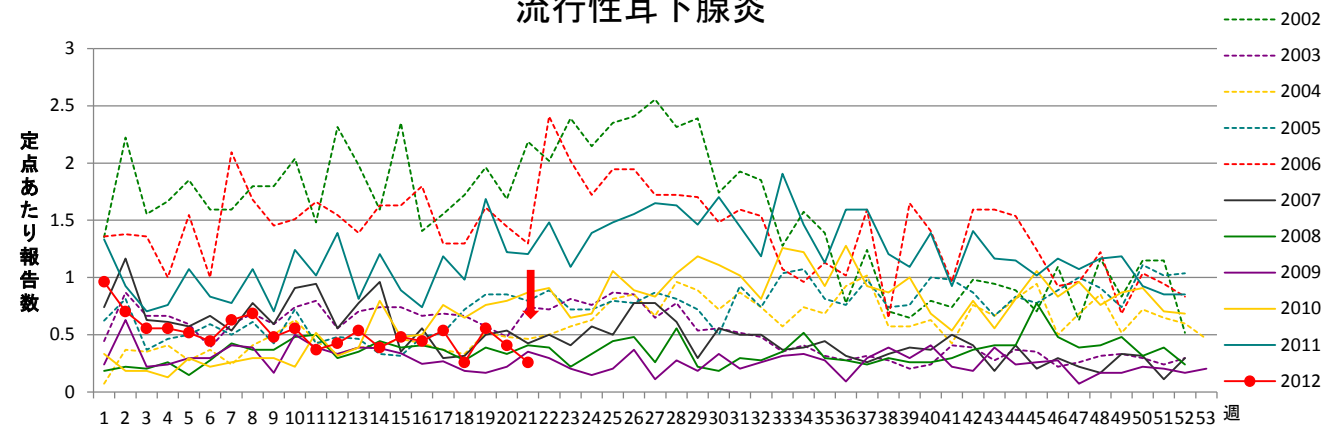
百日咳



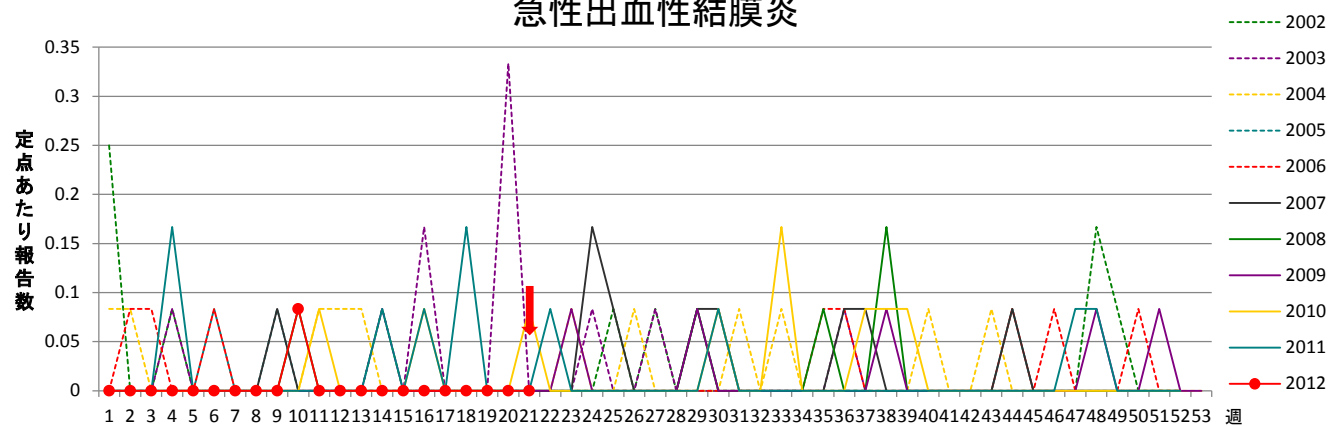
ヘルパンギーナ



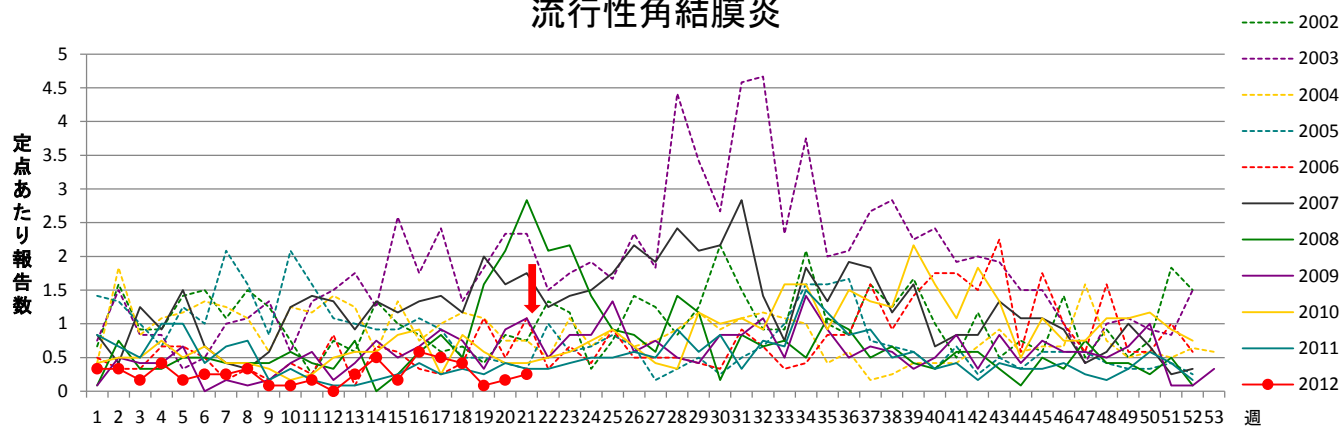
流行性耳下腺炎



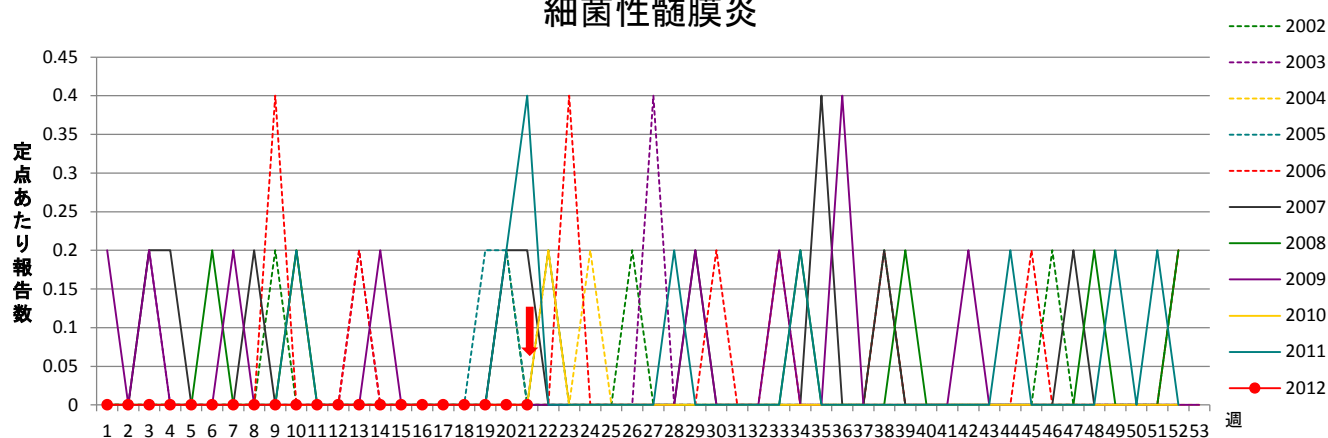
急性出血性結膜炎



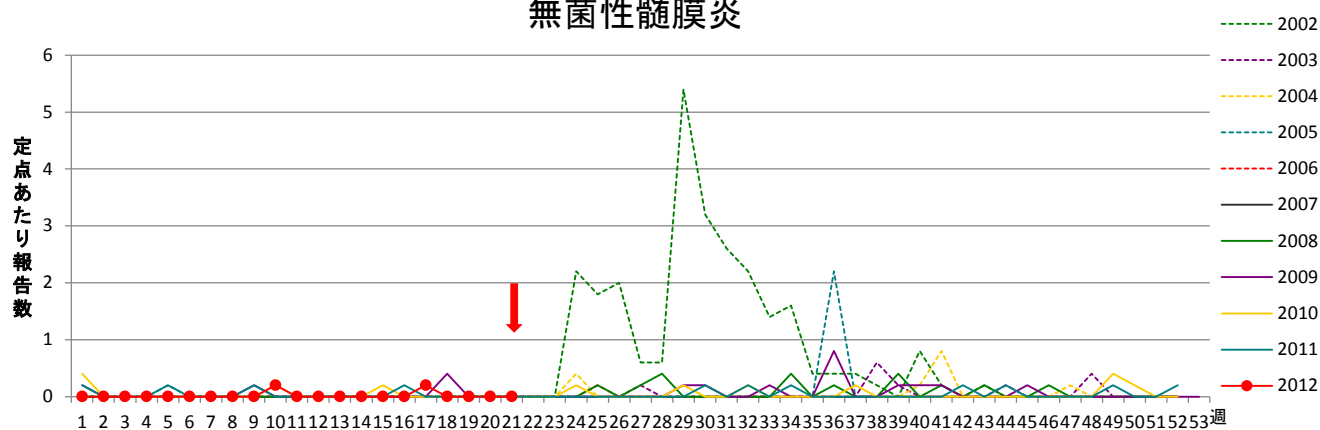
流行性角結膜炎



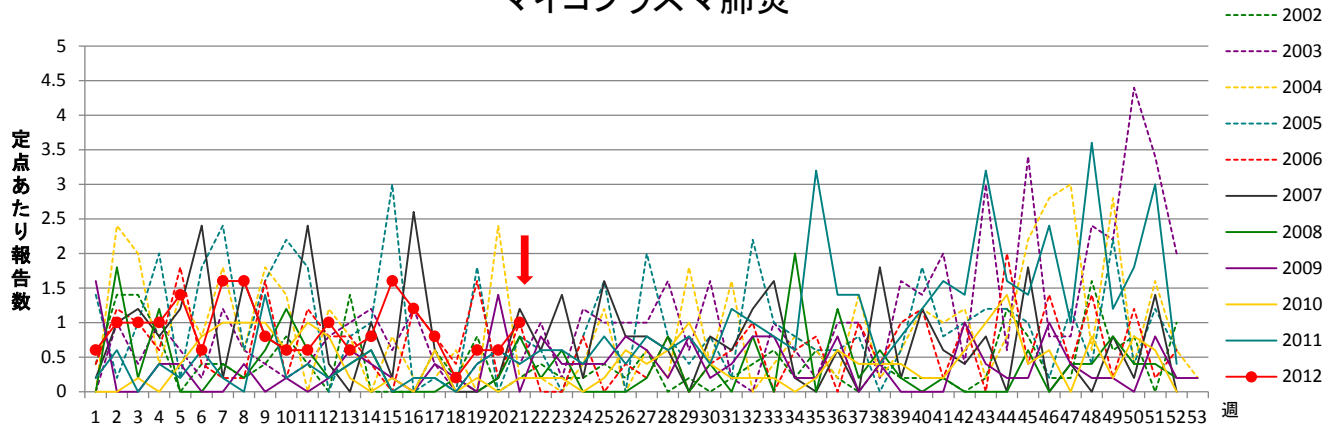
細菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎

